



暹羅より奉送景常地  
 鐘の鳴りし鐘定はりし日本ノ即今も同様  
 かと遙かニ想出せり也

暹羅式ニ遊遊所ノ同治代ニ此ノ露都  
 之國下ノ力カニ鐘ハ之銀製ノ甚入土耳古  
 ニテ同様ノ琥珀ノハイノフ聖右ニ奉呈スル  
 月ノ末ニ佛午元ニ呈スルニ奉存スル





和儀も東洋に應じて多クノ女ノヲ得ナル事ニ  
タイタラシキ各通信の事ト別ニ之の親ヲ相成  
使節ハ政府ニ通じトモ之を備へて使節ノ  
及ぶ所ニありし頃ノ一十年ニ年モ一國ニ  
涉ル一ノ如ク地儀も至極ニ而シ其ノ情状も亦  
ノ之輕少ナラセ也若シ他日使節ヲ利用セ

ネニオス 據會あるは何時ニモ出テ少キハ和儀

ハ國家ノあり存シ何レの親親ニあるカハ

也角具是より此邊サレ居テ外平官ノ

近疎也ニ驚キ入リカハ固より加<sup>青木</sup>放<sup>氏</sup>流<sup>と</sup>シ

その他向<sup>者</sup>流<sup>ニ</sup>固<sup>ニ</sup>ハ先<sup>意</sup>也<sup>ハ</sup>也

十一月朔一  
大隈の閣下  
徳也也